

2016 年度 小委員会活動成果報告

(2017 年 1 月 30 日作成)

小委員会名	環境心理小委員会		主 査 名：榎 究 就任年月：2015 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (環境心理生理運営委員会)		委員長名：羽山広文 主 査 名：西名大作
設 置 期 間	2015 年 4 月 ～ 2019 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>人間・環境系を総合的に扱う環境心理研究を発展させるための組織的取り組みを行う。</p> <p>具体的には、前身の小委員会で開催されてきた「環境心理チュートリアル」を継続的に開催すると共に、現在までの研究状況を整理し、今後取り組むべき課題および研究発展のための方策を検討して、実施する。</p> <p>初年度： 1) 環境心理研究に資する情報の提供 (チュートリアル開催等) 2) 交流活動の推進(公開研究会等) 3) 研究状況の整理 (若手研究者の研究紹介等) 4) 活動体制の検討 (環境心理研究発展の方向性の検討等)</p> <p>2 年度： 初年度活動の継続</p> <p>3 年度： 初年度活動の継続</p> <p>4 年度： 初年度活動の継続</p>		
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：無</p> <p>主査：榎 究 (実践女子大学)、幹事：小島隆矢 (早稲田大学) 委員：上野佳奈子 (明治大学)、大石洋之 (榊ジェイアール東日本建築設計事務所)、古賀 誉章 (宇都宮大学)、佐野奈緒子 (東京電機大学)、高橋浩伸 (熊本県立大学)、高橋正樹 (文化学園大学)、辻村壮平 (茨城大学)、長澤夏子 (お茶の水女子大学)、西原直枝 (聖心女子大学)、宗方淳 (千葉大学)、渡辺秀俊 (文化学園大学)、小崎美希 (お茶の水女子大学)、宇治川正人 (東京電機大学)</p>		
設置 WG (WG 名：目的)	<p>チュートリアル運営 WG： 人間・環境系研究の実施に有用な知識を研究者に広めることを目的としたチュートリアルを企画・実施し、技術の普及および研究レベルの向上に貢献すること。</p> <p>環境心理研究手法 WG： 環境心理研究の質の向上に資する研究手法的な知見を収集・分析すること。</p> <p>かわいいと建築に関する研究 WG： 2015 年 3 月まで設置された「可愛い」を求める心と空間のあり方に関する研究 WG の成果を引き継ぎ、建築施設にかawaiiことの効果 (例：親近感、和み、癒し、他) を発揮させる適用方法の検討、およびその成果の普及活動。</p> <p>文化と環境 WG： 国・都市といった地域に根ざしたものからサブカルチャーや年代に根ざしたものまで様々なコミュニティに着目し、人間- 環境系の文化的側面を探索する枠組みの提案と事例の収集・紹介・調査を行う。</p>		
2016 年度予算	115,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	環境心理小委員会：3回（年度内開催予定を含む） ・チュートリアル運営WG：3回（年度内開催予定を含む） ・環境心理研究手法WG：2回 ・かわいいと建築に関する研究WG：3回（年度内開催予定を含む） ・文化と環境WG：4回（年度内開催予定を含む）
刊行物 （シンポジウム資料等は除く）	
講習会	
催し物 （シンポジウム・セミナー等） *能力開発支援事業委員会承認企画	1. 第16回チュートリアル「違いがわかる、違いが見える 心理生理データの統計分析」 参加者数 71名 2. シンポジウム「かわいいと建築2016」 参加者数 42名
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 （当初の活動計画と得られた成果との関係）	十分な成果が得られている。 1) 環境心理研究に資する情報の提供（チュートリアル開催等） 1. チュートリアルの開催（2016年9月5日） 2) 交流活動の推進（公開研究会等） 2. シンポジウム「かわいいと建築2016」の開催（2016年10月14日） 3. かわいいと建築に関する研究WG デジタル機関誌「K・キューブ」の発刊（年度内に計4号を発刊予定。PDF形式のものであるので、刊行物ではなく、こちらに記載する。） 3) 研究状況の整理（若手研究者の研究紹介等） 4. 文化と環境WG内での委員自身の研究・周辺領域の研究の紹介 5. 評価グリッド法について総括する書籍の執筆計画を検討し、目次案を作成した。 4) 活動体制の検討（環境心理研究発展の方向性の検討等） 6. 2017年4月からの新WG設置に向けた討論およびその結果としての環境心理教育検討WG設置申請
委員会活動の問題点・課題	

2016 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A B C D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>「目標の達成度」においても記述したが、下記の活動を実施し、十分な成果が得られたため、総合評価は A と判断した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. チュートリアル開催 (2016 年 9 月 5 日) 2. シンポジウム「かわいいと建築 2016」の開催 (2016 年 10 月 14 日) 3. かわいいと建築に関する研究 WG デジタル機関誌「K・キューブ」の発刊 (年度内に計 4 号を発刊予定。PDF 形式のものであるので、刊行物ではなく、こちらに記載する。) 4. 文化と環境 WG 内の自身の研究・周辺領域の研究の紹介 5. 評価グリッド法について総括する書籍の執筆計画を検討し、目次案を作成した。 6. 2017 年 4 月からの新 WG 設置に向けた討論およびその結果としての環境心理教育検討 WG 設置申請

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価 (シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など) に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。